

一年の行事について教えて(食文化・子どもの遊び)

座光寺で生活するなかで、1年間の行事や文化、子どもの遊びにはどのような事があるでしょうか？

正月の行事

- 1月1日 元旦
- 2日 すり初め、書き初め、買い初め
- 3日 オイベス開き
- 6日 六日正月
- 7日 ほんやり、七草
- 11日 鏡開き

○二年参り 初詣

二年参りは除夜の鐘を聞き、麻績神社などへお参りします。初詣は年の始めに神社、お寺にお参りに行きます。

○元旦

朝起きて四方拝をします。家族で歯固めの栗・干し柿・甘納豆などを食べお茶を飲みます。

三ヶ日はおせち料理や雑煮などを食べます。

○すり初め、書き初め、買い初め(1月2日)

すり初めは朝食にとろろ芋を摺って食べます。書初めは宿題などで習字をします。買い初めは飯田の町へ神仏の供え物、家内中の必需品などを買い、福引きを楽しみに出かけました。

○六日年(1月6日)

朝早く雑煮で年を取ります。門松を片付け、子どもたちは、地区内の門松、おやすなどを集めてほんやりを作ります。

○ほんやり(1月7日)

小学校一年から六年生が行っていました。地区の山から御神木を取り、中心に立て周りに竹・松飾り・おやすで飾ります。七日の朝早く地区内を「ほーほ ほーほ ほんやりほーほ 餅持ってとんで来い」と言ってまわり、点火します。ほんやりの熾きで餅を焼き食べると風邪をひかない、燃え残りの枝を持ち帰り、家の屋根に揚げると火事にならないと言われています。

○七草(1月7日)

正月のご馳走で疲れた胃腸を休め、栄養補給に朝、七草(セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ)の入ったおかゆを食べます。

○鏡開き(1月11日)

お供えの鏡餅を柔らかく煮立て雑煮にして食べ、一家の円満を願います。

小正月の行事

- 1月15日 小正月
- 20日 二十日正月

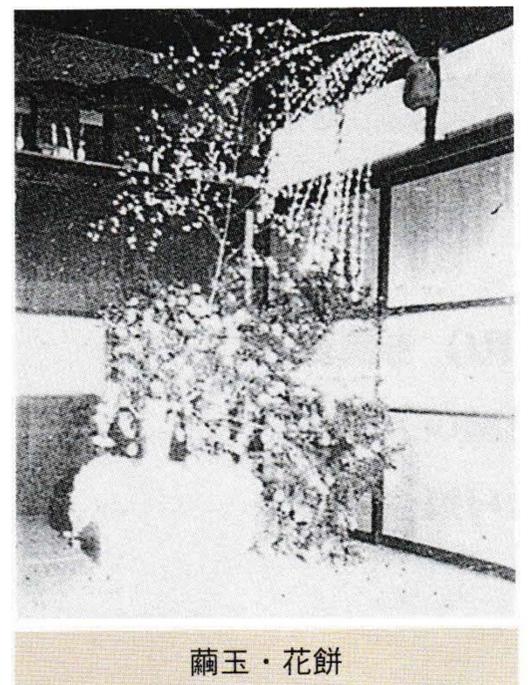
○小正月(1月15日)

松の内に忙しく働いた主婦をねぎらう意味で「女正月」とも呼ばれています。

1月13日に米の粉で繭玉と餅花を作り、ピンカと竹の枝に刺して飾ります。オニギは胡桃の木などを切って二つに割り、その両面に墨で「十二月」と書き神棚などに供えて飾ります。オニギ焼きは1月20日頃に子供たちが集めて焼き、繭玉の餅を焼いて食べました。

○二十日正月(1月20日)

1月20日は正月の締めくくりの日とされ、簡単な年取りをしました。



繭玉・花餅

春の行事

- 2月3日 節分
- 初旬 初午
- 初旬 庚申祭り
- 3月21日 春分(彼岸の中日)
- 4月1日 麻績神社春祭り
- 3日 雛祭り
- 8日 お花まつり
- 5月5日 端午の節句

○節分(2月3日) 立春の前日

旧暦では、立春が1年の始まりとされていました。大豆を炒って柘にいれ、家の玄関戸や部屋の戸を開けて

「鬼は外、福は内、福は内」と言って豆をまき、邪気や災厄を防ぎ、追い払う行事です。

残った杓の豆を一握りで歳の数だけ掴めると運が良いとされ、家族でお茶を飲みながら食べます。

小さな紙に「蟹・柊」と書き、イワシの頭を串に刺して戸間口の戸袋へ張り魔除けにします。

年男が鬼の面、お亀の面を被り地区内を回ります。

○初午

2月の最初の午の日に蚕の繭がたくさん取れるように、小正月に飾った繭玉を煮て繭ネリを食べます。

○庚申祭り

2月最初の申の日に地区の辻などにある「庚申塔」にお参りし、健康で長生きできますように祈ります。

○彼岸の中日（3月21日又は20日）

春分の日如来寺（元善光寺）の境内に屋台店が並び、大道芸や矢場では弓道大会が行われました。子どもたちは、小遣いをもらい屋台店でおもちゃや綿菓子を買いました。

○麻績神社春祭り（4月1日）

3月31日宵祭り、4月1日が本祭りでしたが、現在は4月第1日曜日に行っています。

高岡の森から獅子曳きに曳かれる獅子舞、赤青の天狗、子どもたちの引く獅子屋台、おかめ・ヒョットコ、越後獅子等が練り歩き、麻績神社に奉納されます。

麻績神社のお祭りは、他に元旦祭、秋祭り、勤労感謝



お花まつり

祭を5地区の年番が交代で担当します。

○雛祭り（4月3日）

女の子の節句として3月の内から雛壇をつくり、雛人形や花を飾り、甘酒や草もちを食べ子供の成長を祝います。祭りが終わると早く片付けないとお嫁に行くのが遅れると言われています。

○お花まつり（4月8日）

お釈迦様の誕生日を祝う祭りです。

草花で飾った花御堂のお釈迦様の像に甘茶をかけてお参りします。

○端午の節句（5月5日）

男の子の節句として、武者人形を座敷に飾り、鯉のぼり、のぼりを門先に立て子どもの成長を祝います。

五節句 奇数が重なる日選ばれています。

一月七日(人日)、三月三日(桃の節句)、五月五日(端午の節句)、七月七日(七夕)、九月九日(重陽の節句)

夏の行事

6月 初旬 おさなぶり

7月 初旬 蚕玉様のお祭り

13~15日 祇園祭り

8月6日 七夕

13~16日 お盆

○おさなぶり（6月初旬）

田植えが終わると今年の豊作を祈りおさなぶりをを行います。

苗代の水口に稲の束をまとめて植え、細長い石を縦に立て神様とし、野の花を差し、お神酒を進めます。

家では稲の束をきれいに洗って供え、豊作を祈り黄粉のぼた餅（オハギ）や鯉の旨煮を食べます。

○蚕玉様の祭り（7月初旬）

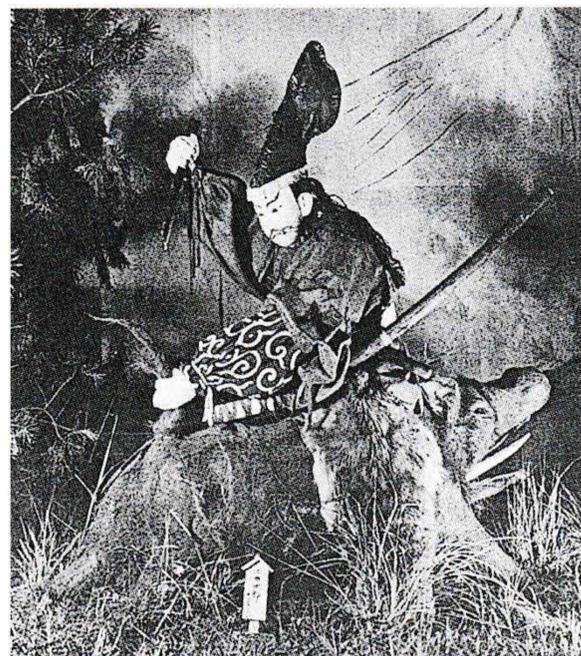
養蚕が盛んであった各地区に蚕の神様を祀り、農作業を休みお祭りを行っていました。

現在も地区行事として継続している地区もあります。

○祇園祭り

(13~15日)

駅前や南市場、北市場などの商店街に5、6か所に幼児ほどの大きさの人形を飾りつけました。



祇園祭り

○七夕（8月6日）

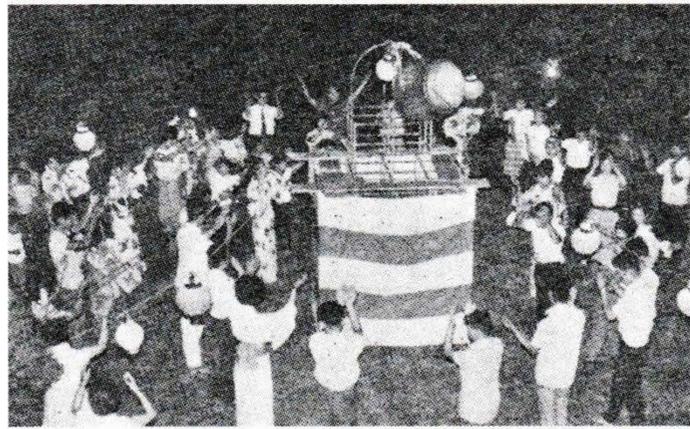
8月6日の朝早く、里芋の葉の露を取って硯の水として墨をすり、短冊には「天の川」「星祭り」や願い事を書きます。竹を2本対にして立て短冊を結び、その前に野菜などを供え、彦星と織姫にあやかって子どもたちの技芸の上達を祈りました。8月8日朝、近くの川に流しました。

○お盆

8月に入りお墓の掃除をし、8月13日朝お盆のお棚を飾ります。ススキのごぎを敷き、オミナエシなどの花を供えます。夕方お墓にご先祖様を迎えに行き、藁束で迎え火を焚きます。

16日朝ナス・キュウリで馬を作り、家の門で藁束で送り火を焚いてご先祖様を送ります。

新盆では、砂山に線香を皆で立てます。



盆踊り

地域では盆踊り・灯笼流し・花火大会などをして先祖の霊を慰めます。

秋の行事

9月23日 秋分の日（彼岸の中日）

10月中旬 お月見

下旬 コバシ休み

11月15日 七五三

○秋の彼岸の中日（9月23日又は22日）

秋分の日には春の彼岸と同様に行われています。

○お月見〔旧暦9月12日（13夜）〕

穂の出たススキを土にさし、脇の縁台にカボチャ・サツマイモ・トウモロコシ・団子を供えて、15夜までの2、3日お月さまを観賞します。

○コバシ休み（10月下旬）

秋の脱穀が終わると骨休み、栄養補給をして休養を取りました。

農機具を洗い小屋に納め、おはぎを作ってお馳走にしました。

○七五三（11月15日）

数えの年で、男の子は五歳、女の子は三歳と七歳に神社に参拝して、無事の成長を感謝し、将来の幸福をお祈りします。千歳飴をもらい食べます。

年末の行事

12月21日 冬至

31日 お年取り

○冬至（12月21日）

昼の時間が一番短い日。カボチャを食べると病気にならないといわれます。

○正月の準備

年末には家の内外のすす払い（大掃除）をします。門松取りは12月25日ごろ行い、松は3段、5段と奇数の松を取り、松飾りは30日に飾る家が多いようです。

餅つきは28日か30日に行い29日につく餅は苦餅といって嫌われました。

○お年取り（大晦日 12月31日）

1年を振り返り家族がそろってご馳走を食べます。年取りの魚はこの地域は出世魚のブリを食べる家が多く、煮物に7種類（昆布・里芋・人参・大根・ゴボウ・こんにゃく・豆腐）の野菜などを入れます。

○講

秋葉講、豊川講、伊勢講

各地区で加入し、毎年正月に代表が1泊2日で参拝し、お札を配ります。

飯田市編さん委員会民俗部会編集「座光寺の民俗」より

子供の遊び

夏

虫取り（蝶・蝉・カブトムシなど）、魚とり、水泳、花火

正月

おしなご、はねつき、まりつき、かるた、百人一首、花札、トランプ、みかん引き

竹馬、凧揚げ、雪合戦、そり、スケート

通年

縄跳び、ゴム飛び、かくれんぼ、めんこ、おしくら饅頭、石蹴り、カン蹴り、おはじき、陣取り、電車ごっこ（レンゲ、クローバ）、蹴りベース、三角ベース

（片桐善昭、篠田直毅）